

韓統連大阪通信紙

自主

チャジュ

402号

2024年9月号

자주

発行：韓統連大阪本部 自主編集委員会  
〒544-0034  
大阪市生野区桃谷3-13-6  
TEL06-6711-6377 FAX06-6711-6378  
毎月1回発行 購読料年間3000円  
郵便振替 00940-7-314392  
自主編集委員会

## 困難な道を前にしても、よどみない統一気運

一昨年、昨年に続いて母国訪問団の一員として8月のソウルに赴いた。

今回の主な目的は8月10日の「戦争危機を助長し、韓米日・韓日軍事同盟を進める尹錫悦政権退陣汎国民大会」への参加であった。個人的には南北関係が断絶している状況下で、南の自主平和統一運動が活気を保っているかに強い関心があった。

大会前夜の進歩陣営主催の歓迎会では、韓忠穆(ハン・チュンモク)韓国進歩連帯常任代表から、私たちへの丁寧な歓迎の言葉に続き「今、私たちは大変難しい、統一運動が簡単ではない時代にあり、また親日派が闊歩する世相になりつつある。親日守旧勢力の壁を打ち壊さねばならない」という言葉とともに、私たちが共有すべき運動の立ち位置と方向を示す挨拶があった。

翌10日、大会場に着くと大会前段の恒例「統一ピビンバ大会」がすでに佳境にあったが、それ以上にプンムル(農楽)隊と若い集団「統一先鋒隊」の炎天下の中にも活発な動きが目立ち、印象的であった。プンムル隊は練習か本番か区別がつかないほど、数10分間ぶっ続けて打楽器演奏と踊りを続けていた。「統一先鋒隊」は大学生たちと聞いたが、高校生に見えるほど、まだあどけなさが残る若者が多い印象。動いてはまた集まるを繰り返していた様子だが、その立ち居振る舞いには若者らしい軽やかさとともに、整然さが保たれていた。他の参加者にも共通した印象だが『皆なホントに根気があって真面目やなあ』と正直実感した。

大会開始前に私たちを含めた第1陣デモが出発。

デモの道中で出会った幾つかの比較的小規模の集会の中には、私たちの運動を『北の手先』呼ばわりする親米・親日右翼の集会も見かけたが、そんな中、最も印象的だったのがパレスチナ・ガザ民衆に連帯する集会。スピーカーの『Free, free, Palestine』のコールに、私たちデモ隊も『Free, free, Palestine』と呼応する、そんな自然なやりとりがあった。

デモ隊の声のボリュームが最高潮であった米国大使館付近を経て、デモ隊は大会場へ。すでに会場は1万人に至ろうかという満杯状態。民主労総が最多で進歩党からの参加者も多い印象。そして最前列の塊が統一先鋒隊。大会の舞台からのコールに、はつらつと呼応するその元気ぶりが、やはり目立った。



▲平和行進を行う韓統連訪問団(右側が金昌範代表)

その後、私たちは再び南の活動家たちとの交流へ。交流会場となった飲食店には『日本から連帯しに来ている』との噂を聞きつけた人たちが、入れ代わり立ち代わりで終始満席状態。その歓迎ぶりには嬉しさとともに、どこかお尻がかゆくなるような感慨も同居した。

今回の最大の収穫は南の自主平和統一運動の元気を確認できたこと。ブレることなく、信念を持って運動している姿は私たちの元気にもつながった。一方で現在の運動の力では南北関係を再び転換するにはまだ弱いとも実感した。

もう一つ大切なおみやげは、私たちの運動課題への意識。日本での私たちの運動の質と量が、かつてないほど問われている。この課題を現場の実践へと落とし込むことなしに、私たちは「南の運動と連帯した」と胸を張ることはできないと考える。期健闘！(金昌範)

## 日韓平和連帯8・15光復節訪韓団活動報告

## 日韓平和連帯代表 西山直洋

今回、団としては2名の代表参加（全日建関西生コン支部・全港湾大阪支部）だったが、来年の80周年行事に向けた打合せも兼ねての訪韓だった。

まず8月9日に韓国で日本資本と闘う闘志たちの現場、日東オプティカル平澤（ピョンテカ）工場前座り込み現場へ向かった。事前におおさかユニオンネットワークで作成した、オプティカルハイテック支会への檄布を持参しての現場である。チェ・ヒョンファン支会長は元気に出迎えてくれた。現在、分会員が削られてきているが、解決するまで体を張って闘う姿勢を、日本の労働運動にも共有させていかなくてはならないと感じさせられた。

韓国も日本と同じく暑かったが、座り込みテントで今後の闘争計画や懇談会を行った。このオプティカル争議では韓国の国会議員らが、この問題に対して日本首相官邸や日東電工本社（東京）を訪問したが、日本政府、日東電工側はこれを拒否。しかし議員団はこれに懲りず韓国に帰り、次なる作戦は「外国資本による食い逃げ防止法」を制定しようと国会議員団たちが動きだしたことに驚きを感じた。現場闘争と政治の場から、国会議員が資本家を追い詰めるこの国の闘い方を、日本は社会全体で変えていかなくてはならない。

その後、工場の退勤時間に合わせ退勤宣伝活動を共に展開した。私たちも日本資本の工場内で働く日本人に聞こえるようにアピールした。

そして韓国国内では尹政権による安倍元首相の「歴史否定論」など日本の右傾化論理を受け入れた政治は、7月27日に韓国政府が日本の佐渡鉦山（佐渡島の金山）のユネスコ世界文化遺産の登録に賛成したところにも表れている。尹錫悦政権が日本の右傾化の中心論理である「植民地支配合

法化」に同調する道に深く入り込んでいることも韓国では報道されている。

そのような中、8月10日、ソウル市庁近くの崇礼門近隣で開催された「尹錫悦政権退陣が韓半島の平和、不平等社会の解消だ！労組法2・3条、放送4法を直ちに公布！政権危機脱出用韓半島戦争策動 尹錫悦政権退陣！8・15全国労働者大会」が開催された。前段では全国各地から米軍基地撤去の声をあげてきた平和を求めるデモ隊も参加して、「統一ビビンバ」を集会場横で作り、それを振舞った。



▲ソウル市内を平和行進する西山代表(右側)

加して、「統一ビビンバ」を集会場横で作り、それを振舞った。

第3次世界大戦ともいえる東アジア太平洋地域における現在の状況は、中国・朝鮮民主主義人民共和国などを仮想敵国とし、米国を中心とする日米韓3ヶ国による合同軍事演習も、この間行われてき

ている中での集会開催である。例年8月15日に開催されているが、今年は8月10日が土曜日であることからこの日の集会になった。

さらに集会前段では尹政権の韓国社会の中、続々労働組合が立ち上がってきている民主労総の宅配労組が前段集会を開催した。そして本集会では民主労総各産別労組が結集し、昨年と比べても大規模な集会になった。

集会とデモ後は、韓国進歩連帯他20団体の集まる場で、日韓平和連帯と全国から集まった韓統連の仲間と合流、大規模な交流会も開催された。

来年、光復節80周年を迎え大規模の開催される平和統一集会に、東アジアの平和を求める日本側として大規模な団を構成していきたいと訴え、今回の日韓平和連帯訪韓団を終えた。



## 8・15汎国民大会アピール文

### 戦争助長、韓米日一韓日軍事同盟を推進する尹錫悦政権は退陣しろ！

南北間ですべての対話チャンネルが断絶し、軍事境界線一帯の衝突を防止してきた「9・19軍事合意」まで効力停止する中、朝鮮半島の軍事危機が引き続き高まっている。

わたしたちは尹錫悦政権の人為的な戦争助長の動きを強く糾弾し、次のように要求する。

対北ビラ散布と拡声器放送など、軍事行動の一環である「対北心理戦」は南北衝突を助長するだけでなく、非武装地帯に向けた敵対行為を禁止した停戦協定と対北拡声器放送の禁止を明文化した南北関係発展法に対する違反行為である。尹錫悦政権は対北ビラ散布をただちに規制し対北拡声器放送をすべて中止しろ！

陸上と海上の軍事境界線の最隣接地域で相手を狙った実射撃訓練の進行は、それ自体が敵対行為であり、特に相互境界線が合意されていない西海（黄海）での訓練は危険きわまりない。尹錫悦政権は軍事境界線隣接地域の実射撃訓練をすべて中止しろ！

米国の核戦略に韓国の在来式戦力を動員する韓米核戦略指針は、米国の覇権政策に韓国軍を急先鋒として差し出すものであり、同時に朝鮮半島における核戦争の危険を一層高める危険千万な措置である。韓米合同核戦争演習を中止し、戦争計画をただちに撤回しろ！

「自由民主主義」という偽りの包装紙をかぶせたまま、北を敵と規定し政権崩壊、指揮部除去などを公然と主張し推進する尹錫悦政権の対北敵視政策は、緊張を高め葛藤を激化させるだけである。尹錫悦政権は対北崩壊政策をただちに廃棄しろ！

尹錫悦政権は日本との軍事協力のために歴史正義と主権を自ら放棄するのはもちろん、米国の利益のための覇権戦争の急先鋒を自任している。わたしたちは尹錫悦政権の事大屈辱外交、新冷戦対

決偏向外交を強く糾弾し次のように要求する。

尹錫悦政権は日本軍性奴隷制、強制動員など植民地犯罪を消そうとする日本の動きに積極的に協力しており、独島領有権を侵犯する日本の態度を黙認し、独立記念館長に親日ニューライト人士を任命するなど、反歴史的、反主権的行為を続けている。尹錫悦政権は日本の植民地犯罪の隠ぺい、歴史正義のき損など親日事大政策をただちに中止しろ！



▲舞台上でアピール文を朗読する各界代表

自衛隊の朝鮮半島への再進出を裏付け、新冷戦対決を激化させる韓米日一韓日軍事同盟の推進が全面化されている。朝中口を敵に強要する韓米日一韓日軍事同盟の推進が主権と平和、民生をひどくき損するのは火を見るよりも明らかである。尹錫悦政権は安保危機を呼び起こす韓米日一韓日軍事同盟の推進をただちに撤回

しろ！

米国は在韓米軍の活動範囲の拡張と国連軍司令部の軍事機能の復活など、朝鮮半島を新冷戦対決の最前線へと追い込む中で、防衛費分担金の大幅増額も要求している。この地は米国の戦争基地ではない！防衛費分担金の屈辱交渉をただちに中止しろ！

自主と平和、統一へと向かう民族の歩みを徹底して塞ぎ、総選挙での厳重な審判を徹底して無視したまま、戦争助長、事大売国で一貫する尹錫悦政権をそのままにしては、主権と平和も国民の安全も実現することはできない。

これ以上はたえられない！

戦争助長、韓米日一韓日軍事同盟を推進する尹錫悦政権は退陣しろ！

2024年8月10日

戦争助長、韓米日一韓日軍事同盟推進  
尹錫悦退陣！8・15汎国民大会参加者一同

## 韓青チンチャコリア活動報告

韓青大阪府本部 朴槿洙(ハク・クンス)

8月10日～12日まで「在日コリアン青年学生のための本当の韓国発見ツアー〈チンチャコリア〉」が行われた。今回総勢11名の在日同胞青年が結集、私はスタッフとしてツアーに同行した。以下、3日間の活動内容を報告する。

1日目、開会式はソウル市内の某所で開かれたが、私を含む関西方面からの参加者は定刻に間に合わず、開会式後に参加する8・15汎国民大会の会場で合流する流れとなり、その後、15時頃から大会を参観。大会では各界各層から親日売国行為、対北戦争挑発を繰り返す尹錫悦政権への糾弾発言が相次ぎ、臨界点を突破した韓国民衆の怒りが感じられた。

地鳴りのように響く喊声と大会の熱気は、日本社会で委縮する私に故国の記憶を呼び覚ましてくれたのであるが、今回初めて政治集会に参加した同胞青年らは面食らったことだろう。夕刻になり市内某所にあるモンダンヨンピルの事務所を訪問。軽く挨拶を済ませた後、近隣の飲食店で交流会が開かれた。

2日目、この日は朝から坡州方面に移動しDMZ平和ツアーに参加。臨津閣、在韓米軍基地跡(キャンプグリーブス)、鰲頭山(オドゥサン)統一展望台など各所を訪れ、現地ガイド担当者による懇切丁寧な説明を受けながら見学した。特に統一展望台からはY字に流れる臨津江と漢江の合流ポイントを間近に見ることができ、また対岸に臨む北側の臨漢里(開城特級市)を肉眼で確認することもできた。

暫く感慨にふけっていると何処からともなく、耳にまとわりつくように不快な金属音が聞こえ始めた。ガイドの説明から、それが対北拡声器放送であることを知ったのであるが、拡声器が指向性仕様になっているため、拡声器の後方(南側)では不気味な怪音のように聞こえるそうである。前方(北側)ではおそらく陽気なK-POP音楽が聞こえ

ているのだとか。狂気じみた対北戦争挑発の実態を目の当たりにしすっかり気が滅入ってしまった筆者のすぐ傍で、日本人観光客らが「お!?!通行人発見!」と北側を「のぞき」見るための望遠鏡に目を当てながら能天気な日本語で会話していた。これが祖国分断の現実である。

夕刻になり、ソウル市内に戻ってから平和の少女像作者であるキム・ソギョン、キム・ウンソン両氏と少女像前で面会、その後、近隣のカフェで懇談会が開かれた。

両氏から少女像製作に至った経緯を直接聞くこ



▲鰲頭山(オドゥサン)統一展望台から見た景色

とができしたが、当初は性奴隷被害者のための簡易な石碑製作を想定していたところ、良識欠如者たち(※日本政府及びこれを追認する日本国民)への怒りがモチベーションとなり、現在の少女像デザインに繋がったという逸話は何とも皮肉なものである。

この日の夜は明洞某所にある「あの名店」にて6・15

青学本部との交流会が開かれた。先方は現地大学生を中心とする若いメンバーが多数出席。自然に宴は呑めや、歌えやのドンチャン騒ぎになり、ツアーは最高潮の盛況を呈した。

3日目、午前中に明洞を観光した後、近隣の韓定食店で閉会式が行われ、今回ツアーに参加した感想を語り合った後、参加者たちはそれぞれの帰途についた。

上記報告はあくまで筆者の目線から捉えたチンチャコリアである。他参加者それぞれのチンチャコリアについては来月実施される韓青全国夏期講習会の場で是非拝聴したい。

末筆ながら今回多方面でツアーの進行に協力頂き、ガイドを務めて頂いた6・15青学本部の同志2名に厚く御礼申し上げます。

※良識欠如者という表現は筆者の造語であり、少女像作者の発言ではありません。

## 【コラム】

## 夏に氷

この夏は記録的な暑さで道端の影に座り込んで休む人を見かけるほどだった。産業革命以後、地球の気温は1.5℃上がり、今もじりじりと上昇しつづけているという話もある。

このような暑気に対して少しでも涼を求めんとする伝統文化の一つが「氷室」だ。冬に氷や雪を倉庫に蓄え、夏に取り出して涼を得るといふものだ。

日本では氷室や雪室を用いて冬の氷雪を夏まで貯蔵した。日本の氷室文化は『日本書紀』にも記され、江戸時代には旧暦の6月1日を氷室の節句として氷の献上や下賜を行う行事があったそうだ。

中国にも勿論、古くから氷室があり「凌室」と呼ばれていた。

462年(大明6)南朝宋の孝武帝が凌室を設けるように命じ、夏場の宮中の祭祀や料理、喪葬に用いたという。『宋書』礼志によると冬の最後の月に氷を収め、春分の日凌室を開き、立秋に至るまでの期間、必要に応じて氷を取り出していたそうだ。

わが国もまた古代から「氷庫」が設けられたという史料が残っている。

「それ死すれば、夏月はみな氷を用いる(『三国志』魏書卷30、烏丸鮮卑東夷伝、夫余)」。

「夏、食をもって氷上に置く(『新唐書』卷220、列伝卷145、東夷、新羅)」。

高句麗の源流である夫余では夏の死者に氷を用いたとある。供物か、または保存が目的だろうか。一方、新羅では食べ物を氷の上に置いたとある。新羅の王である智証麻立干は505年(智証麻立干6)、冬に氷を蔵に収めるよう命じた。『三国史記』職官志によれば新羅には「氷庫典」という氷庫を管理する官職が置かれていた。

高麗もまたその文化を継ぎ、孟冬(初冬)または立春(2月4日ごろ)になれば氷を収める儀式

(蔵氷司寒祭)を執り行った。

「彼の堅氷を取りて、將に凌室(氷庫)に蔵せんとす。茲の行潦を酌みて、祇しみて靈関に扣う。庶わくば陰麻を借り、宣しき協気を導かんことを(『東国李相国文集』卷40、釈道疏、祭祀、「立春蔵氷司寒祭祝」)」。

蔵氷司寒祭の祝文だ。固く引き締まった氷を切り出し、氷庫に収めるとともに、神靈に協の気を導くことを願っている。

そして氷庫を開ける儀式(開氷司寒祭)は春分(3月20日ごろ)に執り行われたとある。中国

の例を参考にすれば、立秋に至るまでの夏季に随時、氷を取り出していく。

「桃棘以て除き、方に陰寒の室を啓かん。蘋蘩、薦む可し。敢えて聡直の靈に干めん。冀わくば明歆を借り、宣しき和気を導かんこと

を(同書、「開氷司寒祭祝」)」。

桃弧棘矢(魔除けの弓矢)で祓い、浮草と白よもぎを供えたと記されている。こちらも神靈に和の気を導くことを願っている。

このように氷を保存する目的は、単に夏の涼を求めるだけのものではない。陽の気が強くなる夏季に陰の気の塊である冬の氷を用いて、気の調和を願ったものだったと考えられる。『高麗史』列伝の権敬中の言によれば、冬に氷を削ることで陰を抑え、夏に氷を頒布することで陽を抑え、これにより雹害を防ぐことができるとある。当時の人たちにとって司寒祭は、天下の気の調和を願う神聖な儀式だったのだろう。

現在、冷凍庫を使えば夏でも氷を簡単に手に入れられる。しかし、電力は基本的に何かを熱して得られるもの。往時と違い、夏の氷は世界の調和をもたらすものではなくなってしまった。(好)



▲慶州に残る石氷庫

## 光復節80周年に向けた大規模訪問団を 今年から組織していこう！ 8・15汎国民大会報告会

光復節79周年を迎え、ソウルで開かれた8・15汎国民大会に訪問団を派遣した、韓統連と日韓平和連帯の活動成果を共有するため「光復節79周年—戦争危機を助長し、韓米日・韓日軍事同盟を推進する尹政権退陣！—8・15汎国民大会訪問団報告会（主催：韓統連大阪本部・日韓平和連帯）」が8月25日（日）、KCC会館（大阪市生野区）で開かれた。

報告会では、西山直洋日韓平和連帯代表が主催者挨拶を行い「私たち訪問団は8月10日、韓国の仲間とともに汎国民大会と平和行進を通じ、戦争危機を助長する尹錫悦政権退陣などを訴えました。今日の報告会では訪問団の活動報告を共有しながら、来年の光復節80周年行事に大規模訪問団を組織していくための出発点としていきましょう」と語った。

次に、金昌範 韓統連大阪本部代表委員が訪問団の活動報告を行った。金代表は映像資料を交えながら、訪問団は韓国内の進歩団体などから大歓迎を受け、翌日の平和行進では、日本から参加した韓統連、日韓平和連帯の隊列が目撃されるとともに、汎国民大会では民主労総をはじめ多くの参加者とともに尹錫悦政権退陣を訴えたことなどが報告され、最後に「今年の成果を土台に光復節80周年行事に向けた準備を今から進めていこう」と



▲報告会には多くの参加者が集まり、  
訪問団の活動の成果を共有した

語った。

続いて、金昌五（キム・チャンオ）韓統連副委員長が情勢講演を行った。金副委員長は「昨年8月の韓米日首脳会談で、韓米日合同軍事演習の定例化が合意されて以降、今年はずでに180日間も合同軍事演習が実施され、軍事演習が日常化している」と指摘した。

続いて「尹錫悦大統領は4月の総選挙で厳しい審判が下されたにもかかわらず、親米、親日政策に固執するとともに、国会で可決された法案に対して拒否権を乱発するなど反民主、反民生政策を継続して行っている」と述べながら、私たちの課題として

▲危険千万な戦争演習を中止させ、朝鮮半島と東アジアの平和を守ること。▲失政が続く尹政権を退陣させること。▲米国の干渉・圧力に屈しない自主的民主政府を樹立すること。▲自主的民主政府の下で連邦制統一を実現することを指摘し「課題を実現のために共に闘っていこう」と語った。

情勢講演後は質疑討論を行った後、朴権洙（パク・クンス）韓青大阪府本部常任委員から8月10日～12日まで韓国で行われた「韓青チンチャコリアツアー」の活動報告、日韓平和連帯訪問団として訪韓した小林勝彦全港湾大阪支部委員長から感想と今後の決意が語られ、最後に孫啓榮（ソン・ゲボム）韓統連大阪本部副代表委員が閉会挨拶を行った。

報告会後は韓米日合同軍事演習、軍事同盟強化に反対するプラカードアピールを行った。

報告会後は韓米日合同軍事演習、軍事同盟強化に反対するプラカードアピールを行った。

### 第2回韓統連セミナー2024

～韓米日・韓日軍事同盟を許すな～

進みゆく戦争準備の仕組みを解き明かす

日時：9月23日（月）午後2時 開会場

場所：東成区民センター6階601号室

報告者：金昌範 韓統連大阪本部代表委員

参加費：800円（青年学生500円）

問合せ：090-3822-5723（崔）

### 編集後記

9月号は8・15汎国民大会訪問団特集号になりました。8月25日の報告会は初めて日韓平和連帯との共催で開催し、今後の担保を築くことができました。

10月6日は統一マダン生野です。皆さん、いくのパークでお待ちしています。（ソン）